

熊本大教育 和田 ユキ

1. 1965年、稲村耕雄氏の提案で、日本ユニフォームセンターにおいて、職場環境に最もふさわしいユニフォームの色として off-white 6色を選定し、eyerest white として発表した。

熊本大学において1967年に医学部附属病院小児科医局員の診察着、1968年に教育学部特別看護学科及び付設の養護教諭養成所学生の看護服の design の委嘱を受け、白衣に代わるホワイティユニフォームをテストケースとして創作を試みた。

2. 小児科医局においては、院内で決められた白衣とは別に科として独自の診察着を、というのがねらいであり、特看、養教の場合は大学病院での看護実習の際、病院勤務の看護婦と識別出来るようにと要望があり、同じ場所での区別は、形よりも色による方が明確であることは色彩学上の常識であり、NUCで発表されたアイレストホワイトを試験的に用いることにし、着用者全員にアイレストホワイトについて説明をし、デザインについての意見も聴取した。色は小児科、特看においては、全員ピスタチオホワイト、養教はクールホワイトを希望、デザインは試作をし、着用の上更に検討を加え、決定した。

3. 新しい試みのホワイティユニフォームは着用者自身、現場において心理的に満足感を持って働いていること、白一色の病院の中で識別が容易であること、又目の疲労の軽減などの効果が認められた。